あ と が き

「10 年ひと区切り」の最後の仕上げがなんとか無事に完了しました。長いようで短いとよく言いますが、じっくり進めているとそれなりに充実感があり、密度も濃く、何かをやり遂げる長さはあったように思います。時流の移ろいを敏感に捉えつつ、時に強引に dictatorship を発揮しながら、学生たちと共に「10 回の夢」を実現させていただきました。

最後のテーマに「白い象」が登場しましたが、元来白象は神聖なもので、必ずしも悪いイメージのシンボルではありません。また、white elephant には「未来」や「夢」に通じるポジティブな意味合いがあるとも聞きます。この作品以外ではメルヴィル、コンラッド、キップリング等の作品にも出てきます。「象」だけなら、さらに多くの英文学に登場します。文学の密林で象探しをするのもまた楽しいのではないでしょうか。

「ひとつの終わりはひとつの始まり」。ひと息ついたら、きっとまた何かを始めるかもしれません。もしかするとまた来年同じことをやっているかも。そのときには噴笑をこらえつつ、また見守ってください。どうぞ末永くごひいきに。

橋 本 賢 二

（PS. この論集のインターネット公開は部分的なものとなります。）